

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190300147		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1473番地3		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月23日	外部評価確定日	平成28年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○協力医療機関との医療連携により、ご利用者の健康管理や急変時の迅速な対応が出来、安心して生活して頂きます。</p> <p>○ご利用者が暮らしやすい明るく和やかな環境を作るために、職員間の意見交換や共通認識、コミュニケーションを図る場を多く設けると共に、研修や勉強会などへの積極的な参加を行って、職員一人一人のキャリアアップに努め、サービスの質の向上を目指しています。</p> <p>○ご家族にも安心して頂けるように、日々の生活の状況を写真に撮り、毎月送付したり施設内に掲示して、ご家族の信頼を得られるように努めています。</p> <p>○ケアマネジメント業務に職員全員で取り組みご利用者・ご家族の意向に沿って、生きがいや楽しみをもって過ごしていただけるように支援を行っています。</p> <p>○管理者をはじめ、認知症ケアの知識を有し、それを実践できる職員が在籍しています。内服調整を第一選択とせず、人との関わりで周辺症状等の緩和へアプローチができることで、その人らしい暮らしを支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体が病院であり協力医でもある。そのため状況に応じて適切な医療が受けられる環境である。また事業所がコンパクトな設計であるため利用者への目が届きやすく、すぐに対応ができています。玄関ではセンサーによるチャイムは鳴るが、それは行動を抑えるためではない。むしろ戸外へ出たいと言われたら暫く一緒に歩き、納得するまで付き添っている。「いかなるときもお客さま本位の運営を行い、人間賛歌の施設を目指します」という理念に基づき、家庭的な面も出せるよう努めている。管理者が「自慢のスタッフ」という職員達は、互いにフォローしあい、受講した研修を広める勉強会では教える側で奮闘し(自身のスキルアップに)、離職もない。また週末に訪れる家族が多いことから、管理者の勤務には日曜出勤を組み込んでいる。せっかく訪れた家族と話ができるようにとの思いからである。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和と確認を行っている。また、勉強会や会議、話し合いを通して理念の共有と実践を心がけている。	毎朝の朝礼時に理念の唱和と確認を行っている。また、勉強会や会議、話し合いを通して理念の共有と実践を心がけている。	理念は母体である病院の理事長がその想いから作り上げたものであり、法人内全ての事業所で統一されている。意識付けには毎朝の唱和を挙げているが、それ以外では、職員会議とは別に毎月集まる勉強会で確認も含め理念に触れている。日々のケアの中では、やりかけた仕事の手を止め、利用者に向き合って話す姿勢にそれが活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い日には施設周辺へ散歩に出掛けている。また、定期的に買物レクを企画したり、地域行事への参加を試みている。施設行事の際にはボランティアを招いたり、夏祭りでは地域住民の方々にも参加して頂いた。	天候の良い日には施設周辺へ散歩に出掛けている。また、定期的に買物レクを企画したり、地域行事への参加を試みている。施設行事の際にはボランティアを招いたり、夏祭りでは地域住民の方々にも参加して頂いた。	管理者は地域との交流を特に大切に考えている。有志が行っている早朝からの神社掃除や住民全体による清掃活動、また高齢者が集うサロンにも積極的に参加している。「ふまネット」(床に敷いた大きな網の目を踏まないように歩く運動学習プログラム)のサポーターとしても交流しており、徐々に周囲の理解は深まっている。また隣接する同法人施設と合同で行う夏祭りや敬老会には地域住民を招き入れ、知ってもらうことで介護に関する相談事でも気軽に立ち寄ってもらえるよう配慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や権利擁護の研修へ積極的に参加をしている。また、施設勉強会開催の際には、地区の掲示板へ案内を掲示して参加の呼びかけをしたり、ご家族へ参加を呼びかける事に努めている。	認知症や権利擁護の研修へ積極的に参加をしている。また、施設勉強会開催の際には、地区の掲示板へ案内を掲示して参加の呼びかけをしたり、ご家族へ参加を呼びかける事に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。ご家族様や行政の意見は議事録として記録し、改善に努めている。また、ボランティアや地域行事などの情報収集の場としても活用している。	2ヶ月に一度開催している。ご家族様や行政の意見は議事録として記録し、改善に努めている。また、ボランティアや地域行事などの情報収集の場としても活用している。	行政からは代理でも出席があり、家族にも毎回全員に連絡をしている。事業所を知ってもらい、忌憚のない意見がもらえるよう配慮している。地域の情報はこの会議に参加する地元役職の区長・民生委員等から得ることが多い。行政からは最近の例で「とすっこ体操」(介護予防体操)を紹介され、利用者の筋力維持へ繋がればと前向きな検討に入っている。限られた時間が有意義な意見交換の場となるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修会の実行委員を務めたり、研修会へも積極的な参加をしている。また、運営推進会議にも参加して頂き、良好な協力関係を保つ様に努めている。	行政主催の研修会の実行委員を務めたり、研修会へも積極的な参加をしている。また、運営推進会議にも参加して頂き、良好な協力関係を保つ様に努めている。	市町村の担当者とは運営推進会議以外でも接点は多い。管理者は行政が関わる同業種の集まりで世話役をしているため日頃から顔なじみである。相談事なども直接会って話す事が多い。また介護相談員も受け入れており、今後はこのルートからも利用者や家族の希望等が拾えればと期待している。管理者が「ふまネット」のサポーターになったことも行政側からの話がきっかけである。運営推進会議では家族の質問にも対応してもらえ協働関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月話し合いの場を設けている。また、定期的に勉強会を開催し、スタッフの理解及び意識付けに努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月話し合いの場を設けている。また、定期的に勉強会を開催し、スタッフの理解及び意識付けに努めている。	職員は身体拘束の内容とその弊害を学ぶ事によって、改めてケアの見直しにもなっている。安全や家族の承諾を理由に正当化することのないよう廃止委員会でも話し合っている。日頃から勉強会の機会が多く、職員のチームプレーや工夫もあり、安心な暮らしが支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での社内研修年間スケジュールを作成し、高齢者虐待防止法についての勉強会を盛り込み実施している。 管理者は、職員のストレスケアに努め、個別の話し合いの場を設ける等の工夫を行っている。	事業所での社内研修年間スケジュールを作成し、高齢者虐待防止法についての勉強会を盛り込み実施している。 管理者は、職員のストレスケアに努め、個別の話し合いの場を設ける等の工夫を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会に参加している。研修に参加した職員は、施設勉強会で発表・報告をして情報の共有を図り、スタッフ一人一人が理解していく為の機会を設けている。	定期的に研修会に参加している。研修に参加した職員は、施設勉強会で発表・報告をして情報の共有を図り、スタッフ一人一人が理解していく為の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約・改定等の際は、説明を十分に行い理解・納得を得られる様に努めている。質問等があれば随時対応している。	契約時及び解約・改定等の際は、説明を十分に行い理解・納得を得られる様に努めている。質問等があれば随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付カウンターに苦情・要望BOXを設置し、随時確認をしている。入居者様やご家族の口頭による苦情や要望があった際には、報告書をまとめスタッフ休憩室に掲示して確認を行っている。	受付カウンターに苦情・要望BOXを設置し、随時確認をしている。入居者様やご家族の口頭による苦情や要望があった際には、報告書をまとめスタッフ休憩室に掲示して確認を行っている。	家族の訪問は多い。まず近況を伝えながら意見や希望も言ってもらえるよう、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。利用者も家族には気持ちを話せることもあり、事業所からもお願いして訪問が増えた例もある。家族の希望では戸外へ出掛けることや、身体機能維持のためのリハビリがある。それらに応えるために個別の外出支援や、リハビリを受けている状況の写真、リハビリ担当者のコメント等を残し職員も学べるようにしている。介護計画へも繋がっている。また事業所の外に苦情や相談窓口があることは書類に明記され説明もしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、スタッフの意見や提案を管理者も含め参加者全員で話し合い、運営に反映できる様に努めている。また、課題がある場合にはその都度話し合いを行い対応している。	毎月カンファレンスを開催し、スタッフの意見や提案を管理者も含め参加者全員で話し合い、運営に反映できる様に努めている。また、課題がある場合にはその都度話し合いを行い対応している。	毎月、全職員を対象にした会議は二つあり、ユニット合同の職員会議と勉強会である。休みの職員の参加は各々の意思に任せている。事前に内容を周知しており、出席できない職員からはメモ書きで届くこともある。会議時間が長引きそうな時は一旦締めて、一週間以内の再開としている。それは会議が長時間になることで利用者のケアが疎かにならないためと再考の時間にもなっている。また、管理者が日頃から心掛けていることは、職員とのコミュニケーションである。事案が発生すれば担当職員や日頃ケアに関わる職員から個別に話を聞き、全体を見た上で管理者がまとめ、会議では結果の周知となっている。意見を言えない、聞き取っていない職員がいないよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は同法人内の会議にて現状報告を行っており、現場スタッフの意見は随時代表者や取締役へ報告している。また、質問や意見、改善提案などに関してもその都度話し合いの場を設けるように努めている。	管理者は同法人内の会議にて現状報告を行っており、現場スタッフの意見は随時代表者や取締役へ報告している。また、質問や意見、改善提案などに関してもその都度話し合いの場を設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は随時面談を行い、スタッフ一人一人の力量を把握したり、希望時には資格取得のための支援を行っている。また、行政主催の研修会に積極的にスタッフの参加を促し、カンファレンスや自施設での勉強会にて報告を行っている。	管理者は随時面談を行い、スタッフ一人一人の力量を把握したり、希望時には資格取得のための支援を行っている。また、行政主催の研修会に積極的にスタッフの参加を促し、カンファレンスや自施設での勉強会にて報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や介護支援専門員協議会等に参加したり、行政主催の研修会・行事に参加して同業者との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。	グループホーム連絡協議会や介護支援専門員協議会等に参加したり、行政主催の研修会・行事に参加して同業者との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の希望があった際には丁寧な案内を心がけ、可能な限りご要望に応えられるよう努めている。入居希望時には事前に情報収集の機会を設けて安心して入居して頂ける様に努めている。	施設見学の希望があった際には丁寧な案内を心がけ、可能な限りご要望に応えられるよう努めている。入居希望時には事前に情報収集の機会を設けて安心して入居して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居を希望されるご家族様には施設の運営規定を十分に説明を行うと共に、ご家族様の不安や要望をお聞きして、良い関係を築けるよう努めている。また、どのように過ごされているかなどの様子を電話や面会時などにこまめに報告したり、毎月写真を送付する工夫を行っている。	施設入居を希望されるご家族様には施設の運営規定を十分に説明を行うと共に、ご家族様の不安や要望をお聞きして、良い関係を築けるよう努めている。また、どのように過ごされているかなどの様子を電話や面会時などにこまめに報告したり、毎月写真を送付する工夫を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に収集する情報や本人様とご家族様の意向をお聞きし、必要であれば他サービスを取り入れた支援ができる様に努めている。	入居前に収集する情報や本人様とご家族様の意向をお聞きし、必要であれば他サービスを取り入れた支援ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の片付けや掃除等の家事作業を入居者様の方々にも参加して頂き、スタッフだけでなく入居者様の協力し合える環境作りに努めている。	食事の片付けや掃除等の家事作業を入居者様の方々にも参加して頂き、スタッフだけでなく入居者様の協力し合える環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の時にはご家族様を招待して本人様とご家族様の交流を深めたり、ご家族様の面会時には、ゆっくりとくつろいで話ができる環境に配慮している。 また、必要時には外出等の支援や面会の依頼をお願いすることもある。	行事の時にはご家族様を招待して本人様とご家族様の交流を深めたり、ご家族様の面会時には、ゆっくりとくつろいで話ができる環境に配慮している。 また、必要時には外出等の支援や面会の依頼をお願いすることもある。	/	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会もあり、毎月希望者があれば買い物へ行ったり、天候が良い日は近所を散歩している。 また、本人のやりたいこと(行きたい場所)等を聞き取って、その実現にむけた個別の支援を行っている。	友人や知人の面会もあり、毎月希望者があれば買い物へ行ったり、天候が良い日は近所を散歩している。 また、本人のやりたいこと(行きたい場所)等を聞き取って、その実現にむけた個別の支援を行っている。	利用者のこれまでの暮らしの状況は本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していた施設等からも話を聞き、その情報は全ての職員で共有している。電話や手紙の手伝いはもとより、家族と共に行きつけの美容院へ通う利用者もいる。職員が手配したタクシーでひとり教会へ詣でる利用者もいる。もしもの時の連絡先を身に付けており、事業所でもできる事は任せ見守っている。事業所では家族を巻き込んだケアを旨とし、入居後も関心を持ってもらうよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からレクリエーション等を通じて入居者様同士が関わり合える環境を作ると共に、各々の居室を訪問し合ったり日常生活の中で、職員が間に入り入居者様同士が支え合える様な環境作りに努めている。	日頃からレクリエーション等を通じて入居者様同士が関わり合える環境を作ると共に、各々の居室を訪問し合ったり日常生活の中で、職員が間に入り入居者様同士が支え合える様な環境作りに努めている。	/	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去や転居された後でも、必要に応じて相談や助言が出来るように努めている。	退去や転居された後でも、必要に応じて相談や助言が出来るように努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や表情から入居者様一人一人の思いを把握したり直接本人様から聞き取って、サービス担当者会議時に話し合い、本人本位に検討している。	日頃の会話や表情から入居者様一人一人の思いを把握したり直接本人様から聞き取って、サービス担当者会議時に話し合い、本人本位に検討している。	日々の関わりの中でも利用者の目線に合わせた姿勢で話し、向き合っている様子がうかがえる。そんな中で利用者が一番話をしてくれるのはお風呂でのリラックスしている時や傍らに寄り添って話しをしている時である。聞き取った内容は連絡ノートやパソコンに入力し(電子カルテのような流れ)共有されている。サービスプランに繋がることもある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話だけでなく、ご家族様へも本人様の生活歴等をお聞きし、これまでの暮らしを把握して支援方法の一つとして検討している。	ご本人様との会話だけでなく、ご家族様へも本人様の生活歴等をお聞きし、これまでの暮らしを把握して支援方法の一つとして検討している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の現状や状況を些細な事でも日々の記録として残し、スタッフが把握できる様に努めている。また、連絡ノートを活用して細かな情報共有を図っている。	入居者様一人一人の現状や状況を些細な事でも日々の記録として残し、スタッフが把握できる様に努めている。また、連絡ノートを活用して細かな情報共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様それぞれに担当者を決めて、毎月モニタリングやケア会議を行い新たな課題がないか検討すると共に、サービス担当者会議を定期的に行い、ケアのあり方について話し合いを行い介護計画を作成している。	入居者様それぞれに担当者を決めて、毎月モニタリングやケア会議を行い新たな課題がないか検討すると共に、サービス担当者会議を定期的に行い、ケアのあり方について話し合いを行い介護計画を作成している。	本人の想いや来所時に聞いた家族の話、また日々のケア中に職員が気付いたことを基に介護計画は作られている。サービス担当者会議には本人や家族の同席もある。設定期間は六ヶ月だが三ヶ月で一度見直しを行い、状況に変化があれば臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの中で気づき等があれば些細な事でも個人記録などに残し、介護計画の見直しに活かしている。	ケアの中で気づき等があれば些細な事でも個人記録などに残し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の面会時に話を聞いたりして、対応が必要な事項については、その時々で臨機応変に対応できる様に努めている。また、面会の多い土日にも柔軟に対応できるスタッフの配置を心がけている。	ご家族様の面会時に話を聞いたりして、対応が必要な事項については、その時々で臨機応変に対応できる様に努めている。また、面会の多い土日にも柔軟に対応できるスタッフの配置を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通所リハビリを利用したり、行事の際にはボランティアの方々を招待し入居者様が楽しむ事が出来る様に支援している。	通所リハビリを利用したり、行事の際にはボランティアの方々を招待し入居者様が楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は、ご家族様の協力の下に継続して受診できる様に支援している。また法人内には協力病院や訪問看護ステーションがあるので、連携を取り適切な医療を受けて頂ける様に支援している。	かかりつけ医がある場合は、ご家族様の協力の下に継続して受診できる様に支援している。また法人内には協力病院や訪問看護ステーションがあるので、連携を取り適切な医療を受けて頂ける様に支援している。	かかりつけ医は利用者の希望通りになっている。入居前からかかりつけ医を持っている方はそのまま、なければ協力医がいることを説明している。経営の母体が病院であることは利用者にも心強い。受診には職員が付き添い、家族が病院で待つこともある。状況に応じて希望する医療も受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察を行い、異常があれば直ぐに担当医師・訪問看護師に報告し、適切な受診や看護が受けられる様に努めている。	日々の状態観察を行い、異常があれば直ぐに担当医師・訪問看護師に報告し、適切な受診や看護が受けられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関関係者と情報交換を行い、状況を把握して早期退院が出来る様に努めている。また、協力医療機関の朝礼等に参加して日頃から関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関関係者と情報交換を行い、状況を把握して早期退院が出来る様に努めている。また、協力医療機関の朝礼等に参加して日頃から関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人様・家族様の希望を聞き、重度化や終末期についての希望・意見を確認している。利用者様の状態の変化に応じて随時意向を確認し、家族・主治医・訪問看護・職員が連携し、本人様が望む支援ができる様に努めている。	入居時に本人様・家族様の希望を聞き、重度化や終末期についての希望・意見を確認している。利用者様の状態の変化に応じて随時意向を確認し、家族・主治医・訪問看護・職員が連携し、本人様が望む支援ができる様に努めている。	これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。法人母体に訪問看護ステーションがありサポート体制も整っている。職員が手薄な夜間の緊急時は誰もが不安を持つところだが、一つひとつ解消に努めている。看護師資格を持つ職員に勉強会を開いてもらうこともその手立てである。状況や容態の変化の度に何度でも話し合いを重ね、家族も納得して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会の訓練参加や、緊急時対応マニュアル及び訪問看護連絡マニュアルを整備し、事故発生時に実践できるよう努めている。	外部研修会の訓練参加や、緊急時対応マニュアル及び訪問看護連絡マニュアルを整備し、事故発生時に実践できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防火チェックや年2回の防火訓練を行い、災害時に迅速な対応が出来る様に職員へ指導をしている。また、訓練の際には地域の協力を得られる様に声かけをしている。	毎月の防火チェックや年2回の防火訓練を行い、災害時に迅速な対応が出来る様に職員へ指導をしている。また、訓練の際には地域の協力を得られる様に声かけをしている。	隣接する同法人施設と合同の訓練で、時間帯は昼間に行い、夜間は想定のみである。利用者も一緒に避難を体験している。消防署や地元消防団、消防機器の業者も立ち会っている。近くに住む職員も数名おり、すぐに駆けつけられる。区長の声掛けで近隣住民の参加もあったが未だ定着はしていない。これからも地域への参加協力を呼びかけていくつもりである。また消火器や火災通報装置の使い方は職員に浸透しており、非常食等は近くにある法人母体から届く手筈になっている。職員が懸念を抱くのは外階段を使つての避難誘導である。夜間の明るさ具合や降りた後の経路等を再確認すべく検討している。記録簿はきちんと整理され、消防署からの指摘や反省点も全ての職員へ伝わるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけると共に、敬意を表した対応に心がけている。また、定期的に接遇の勉強会を開催している。	入居者様の人格の尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけると共に、敬意を表した対応に心がけている。また、定期的に接遇の勉強会を開催している。	穏やかな日常の風景であり、配慮もうかがえる。もし管理者が不適切な場面に遭遇したら、まず別室にてその理由を聞くことにしている。本人に考えさせ、それに至った背景を見ることで解決も早まるとの考えからである。個人情報に対する意識は注意喚起が必要な時もあり、研修等で更に理解が深まるよう力を入れている。ホーム便り等に掲載される個人写真は予め本人や家族の了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様の話を聞き、入居者様の希望や要望に沿った生活が出来る様に働きかけている。	日頃から入居者様の話を聞き、入居者様の希望や要望に沿った生活が出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調やペースに合わせ、その都度本人様の意向を確認しながら希望に沿った支援ができる様に努めている。	入居者様の体調やペースに合わせ、その都度本人様の意向を確認しながら希望に沿った支援ができる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問理・美容の方に来て頂き、カット・カラー・パーマをご利用していただいている。	毎月訪問理・美容の方に来て頂き、カット・カラー・パーマをご利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前には食器等の準備や、食後の片付け・テーブル拭きなど出来る範囲の事は一緒に行っている。おやつを一緒に手作りする事もある。	食前には食器等の準備や、食後の片付け・テーブル拭きなど出来る範囲の事は一緒に行っている。おやつを一緒に手作りする事もある。	法人の一括契約で副食は業者からの配達となっている。希望の形状が選べ、職員は負担軽減分を利用者との語らいに費やすことができる。栄養価も計られ、ノンアルコール類の提供も考慮中である。利用者が苦手な食材の時には代替食はなく、事業所にあるもので対応している。食事は職員一名が検食を兼ねて同じものを食べ、他の職員は介助等で傍らにいる。今後はお弁当であっても一緒に過ごせないものか課題としている。また誕生日は当日に祝い、家族が訪れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態や食事を随時検討し、一覧表を作成している。また、水分・食事の摂取量のチェック表を作成し、栄養のバランスが把握出来る様にしている。	一人一人の状態に合わせた食事形態や食事を随時検討し、一覧表を作成している。また、水分・食事の摂取量のチェック表を作成し、栄養のバランスが把握出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様一人一人に歯磨きの声かけを行い、状態に合わせた個別のケアを行っている。必要時には訪問歯科を利用し、口腔内の確認を行って頂いている。	毎食後、入居者様一人一人に歯磨きの声かけを行い、状態に合わせた個別のケアを行っている。必要時には訪問歯科を利用し、口腔内の確認を行って頂いている。	/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄の記録を行い排泄パターンを把握し、オムツを使用しない工夫を検討し、トイレにて排泄が行える様支援している。	個別に排泄の記録を行い排泄パターンを把握し、オムツを使用しない工夫を検討し、トイレにて排泄が行える様支援している。	日中は出来るだけトイレでの排泄を大切にしている。便座脇の跳ね上げ式肘掛は立ち座りを補助し、背もたれは座位を保持できる。この設備は自立やトイレでの排泄の助けになっている。またパターンの把握で見えた何度もトイレへ行く様子は、便意の予測へと繋がっている。夜間の失敗から、起こすタイミングを見計らっているのも同様である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬には頼らず、水分補給時には乳製品を提供するなどの工夫をしている。また、水分摂取量の記録チェックを行い、不足時はその都度摂取して頂く様に声かけを行っている。	出来るだけ薬には頼らず、水分補給時には乳製品を提供するなどの工夫をしている。また、水分摂取量の記録チェックを行い、不足時はその都度摂取して頂く様に声かけを行っている。	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、一人一人の体調をみて入浴日を変更したり、午前と午後を入れ替える等、その方に応じた入浴の支援を行っている。また、入浴日の入浴順番を掲示して、入居者様にも順番がわかる工夫をしている。	入浴日は決まっているが、一人一人の体調をみて入浴日を変更したり、午前と午後を入れ替える等、その方に応じた入浴の支援を行っている。また、入浴日の入浴順番を掲示して、入居者様にも順番がわかる工夫をしている。	週三回を目途に入浴の支援をしている。午前中には入浴可能であるため、拒む方には午後からや翌日に再度促している。浴室にリフト浴の設備があることは、年を重ねる毎に体力も低下していく利用者にとって安心であり、職員にとっては負担の軽減となっている。脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、過度な介助とならないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態に応じて休息を促している。自室で休まれる時には、室温の調整や乾燥しない様に加湿器を作動させ、気持ちよく眠れる様に支援している。	入居者様の状態に応じて休息を促している。自室で休まれる時には、室温の調整や乾燥しない様に加湿器を作動させ、気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の個人ファイルに薬の説明書を挟み、いつでもスタッフが確認できる様にしている。また、内服薬の変更・追加時はその都度協力医療機関の看護師や、薬局の薬剤師より説明を受けている。服薬介助する際には、スタッフ2名で確認し合い誤薬防止に努めている。	個別の個人ファイルに薬の説明書を挟み、いつでもスタッフが確認できる様にしている。また、内服薬の変更・追加時はその都度協力医療機関の看護師や、薬局の薬剤師より説明を受けている。服薬介助する際には、スタッフ2名で確認し合い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や能力に応じて出来る事を見極め、張り合いや喜びを持って生活できる様に役割分担したり、気分転換できる様に努めている。	今までの生活歴や能力に応じて出来る事を見極め、張り合いや喜びを持って生活できる様に役割分担したり、気分転換できる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の買い物や外出については、希望に沿って支援している。遠方への外出や地域活動等には家族や地域の方の協力を頂き実施している。	近場の買い物や外出については、希望に沿って支援している。遠方への外出や地域活動等には家族や地域の方の協力を頂き実施している。	事業所周辺の散歩は日常的に行っている。天候や体調をみながら近くの神社までというのは利用者にも馴染みのコースである。車で行く買物レクでは店で家族が待っていることもある。また遠方の温泉に行きたいという希望には一対一で職員が付き添い実現させている。家族にも協力を依頼し、巻き込みながら利用者の想いに応じていこうとしている。徐々に意思疎通が難しくなる利用者もいる中で、車椅子対応車も用意できることから全く戸外へ出ないというケースはない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方に関しては、小額を自己管理している。外出の際には買い物等もされている。	自己管理が出来る方に関しては、小額を自己管理している。外出の際には買い物等もされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望・要望時には電話をかけたリ、手紙のやり取りが出来る様に支援している。	希望・要望時には電話をかけたリ、手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけ等をしたリ、花壇を設置して野菜等を育てたり、観葉植物を置いたりして居心地良く過ごせる様な工夫をしている。また、トイレや洗面所・食堂等の共用空間の環境整備に努めている。	季節に応じた飾りつけ等をしたリ、花壇を設置して野菜等を育てたり、観葉植物を置いたりして居心地良く過ごせる様な工夫をしている。また、トイレや洗面所・食堂等の共用空間の環境整備に努めている。	事業所はリビング・キッチンを居室が囲む設計になっている。居室を出れば誰かが見え、話し声も聞こえるコンパクトな設えである。廊下に障害物はなく歩行練習にも使われている。利用者が日中の殆どを過ごすリビングではレースカーテンで日差しが調節され、寛ぎスペースとして窓際にソファも置かれている。国道から少し脇へ入るためか騒音は殆ど気にならない。トイレや浴室はきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	折りたたみ椅子を設置したり、他の居室への移動を希望される際には、移動の支援をするなどそれぞれ好きな場所で過ごせる様にしている。	折りたたみ椅子を設置したり、他の居室への移動を希望される際には、移動の支援をするなどそれぞれ好きな場所で過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具等を持ってきて頂き、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、定期的に本人様や家族の意向を聞きながら、必要な方には部屋の模様替えを手伝っている。各居室にコルクボードを設置して、思い出の写真などを貼って楽しんでいただける様にしている。	自宅で使い慣れた家具等を持ってきて頂き、居心地よく過ごせる工夫をしている。また、定期的に本人様や家族の意向を聞きながら、必要な方には部屋の模様替えを手伝っている。各居室にコルクボードを設置して、思い出の写真などを貼って楽しんでいただける様にしている。	居室には火気等の危険物以外に持込みに制限はしていない。使い慣れたタンス等を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごせるよう、配置も本人に尋ねながら行っている。居室には訪れた家族が飾った写真もあり和ませている。仏壇を持ち、花や水の取替えを自分でやる利用者もいる。掃除では出来る事を手伝ってもいる。希望があれば居室への宿泊も可能だが、これまでは主にターミナル時に利用があった。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1階) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2階) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない造り・手すりの設置・時計・日めくりカレンダーの設置等、居室・共用スペース共に工夫を行い必要に応じた環境作りを行っている。	段差のない造り・手すりの設置・時計・日めくりカレンダーの設置等、居室・共用スペース共に工夫を行い必要に応じた環境作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目: 23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目: 30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない